

テクノス通信 VOL. 15 Aug.2010











「どの対象者にどんなセンサーを選べばいいの？」

離床センサー導入に当たっては、まずは対象者の離床を知りたいことからセンサーを選定されると思いますが、現場ではその「センサー選定」にお困りではないでしょうか。

今回はセンサーの種類とその基本的な対象者一覧表と併せ、「このセンサーが使えなくてもあのセンサーで上手くいった例」を特集しています。1つのセンサーが上手く使えなくても別のセンサーでご対応頂けるケースもあり、今回はその実例をご紹介しますのでぜひご参考にしてください。

■センサーの種類と対象者

	コールマット	ベッドコール	サイドコール	タッチコール	ピローコール	赤外線コール	座コール	トイレコール
センサーの種類	ベッドから立ち上がった時	ベッドから起き上がった時	ベッドの端に寄った時	ベッド柵を握った時	枕から頭を上げた時	動きを赤外線検知	車イスやイスから立ち上がりとした時	便座から腰を浮かせた時
対象者	 <ul style="list-style-type: none"> ●一人でベッドから離れると転倒する ●徘徊の恐れがある 	 <ul style="list-style-type: none"> ●ベッドからの離床が転落に結びつく危険度が高い ●動きが素早い ●最も早めの検知が必要 	 <ul style="list-style-type: none"> ●体動が激しく、離床センサーでの検知が難しい ●床敷きセンサーよりも早い検知が必要 ●足から滑り降りようとする 	 <ul style="list-style-type: none"> ●柵を乗り越えて転落する恐れがある ●柵を抜いてしまう 	 <ul style="list-style-type: none"> ●手術後に安静が必要 ●チューブの自己抜去の危険がある 	 <ul style="list-style-type: none"> ●床敷きタイプのセンサーを避けてしまう ●体圧分散マットレスを使用している（ベッド上に敷くタイプのセンサーが使えない） 	 <ul style="list-style-type: none"> ●認知障害や自立過速で、車イスやイスから立ち上がり歩こうとする 	 <ul style="list-style-type: none"> ●トイレからの自立が危険 ●トイレ後にナースコールを押さない

上記はあくまでも基本的な基準で、対象者の容態や体格、設置環境などより、実際の運用では適合しない場合もあります。そんな時に別のセンサーで上手く運用できたという例をご紹介します。

■このセンサーが使えなくてもあのセンサーで上手くいった例

サイドコール→赤外線コール

ベッドから降りる直前の動きをキャッチするため、サイドコールをデモ試用。しかし、ベッドを低床にしていると、端座位の姿勢を取る際に膝が床より上になるためセンサーがももにしっかり当たらず、報知が不安定だった…

赤外線コールをフットボードに設置することで（右図参照）、報知が安定し課題解決した。



ベッド / サイドコール→タッチコール

ベッド上での起き上がり、ベッドから降りようとする動きをキャッチするため、ベッド / サイドコールをデモ試用したが、動きの激しい対象者で頻回に報知してしまう…

この対象者が起き上がる際にどちらの柵を握るかをスタッフが把握していたため、その柵にタッチコールを設置することで、端座位になる前に対応ができるようになった。

ケーブルタイプ→コードレス

意識は鮮明なもののトイレ介助等の見守りが必要な対象者が居室外に出るタイミングをキャッチするため、出入りにコールマット・ケーブルタイプを玄関マットでカムフラージュの上設置したが、対象者がケーブルに気付くセンサーを避ける…

センサーにケーブルのない、コールマット・コードレスを使用することで（右図参照）、センサーに気付かれず報知できるようになった。



クリップタイプ→ピローコール

クリップタイプのセンサー（他社製）を使用していたが、クリップを対象者自身が外してしまう・寝返りなどで外れ頻回報知する・枕元がセンサーの紐で煩雑になり危険だった…

枕カバーにしまいこんで使用するピローコールを設置することで、対象者には気付かれず、また、コードレスタイプなため、枕元をスッキリとした状態で運用できるようになった。ピローコールは比較的微動で報知しますが、術後麻酔からの覚醒などちょっとした動きをお知らせする際に有効です。

ベッドコール→赤外線コール

柔らかいマットレスと布団を採用していて、また、小柄で軽量な対象者でベッド下部に縮こまって寝る癖があるため、ベッドコールが安定して報知しなかった。コールマットへの変更も検討したが、危険度の高い対象者のためベッドコールと同じタイミングで報知をキャッチしたい…

赤外線コールをフット側だと布団で反応する可能性があったため、ヘッド壁側に設置し（右図参照）起き上がりを報知するようにした。



コールマット→ベッドコール

ベッドから降りたタイミングで報知をキャッチするためコールマットを設置したが、その対象者の居室がステーションから遠いため、スタッフが駆けつける頃には対象者が居室の外に出ていた…

ベッドコールで起き上がったタイミングで報知し、居室へ到着する頃には対象者がちょうどベッドから立ち上がりようとしている状態にすることで課題解決した。対象者基準で考えるとコールマットが適当だが、介護者からの観点ではベッドコール設置が適切だった。



テクノスジャパンでは、センサーを2週間無用でお使いいただける「デモ機貸出し」を行っています。どのセンサーが有効に使用できるか、まずはデモ機試用にてご確認いただくことをおすすめいたします。試用したデモ機が上手く使えなくても別のセンサーを試したり、納得のいくまで選定をしてください。また、デモ試用をして、あまり効果がなかったり、使い方についてもっと知りたいなどご要望があれば、遠慮なくご相談ください。課題解決に
デモ機申込書ダウンロード：<http://technosjapan.jp/demo/> デモ機申込先 FAX：079-288-0969